

〔公開講演会記録〕

# お天気キャスター「福岡良子」ができるまで ～気象予報士に聞く、自分らしいキャリアの作りかた～

福 岡 良 子

令和4年度 ジャーナリズム・政策研究所 公開講演会 記録

2022年7月5日（火）

駒沢キャンパス 中央講堂

## 【講演者プロフィール】

大学在学中に気象予報士の資格を取得し、テレビ出演の仕事始める。大学卒業後は放送局でのサポート業務やネタリサーチ、道路専門の気象情報番組や地方局での実務を経験。気象キャスターとしてもTBSテレビやJFNラジオ、NHK総合に出演。気象予報士の他に防災士、全国通訳案内士（英語）の資格を保有。2021年2月に第一子を出産。天気を通じて日本各所の素晴らしさや自然の尊さを子供にもわかりやすい表現で発信することを心がけている。



## 1 はじめに

私は2020年11月までお天気キャスターとして、NHKで5年間ほど天気を伝えてきました。出産を機にNHKを卒業した形になります。

本日は暑さが少し落ち着いていますが、おとといまで東京も9日間連続で35度以上の猛暑日が続きました。9日間続くことはこれまでなく、記録的な長さです。梅雨明けも早く、6月27日に梅雨明けしました。それも関東甲信越において、これまでで最も早い記録ということで、既に記録づくめの夏になっています。

現場で伝えていて、異常気象が当たり前になってきているとすごく感じています。私が子どもの頃は、夕立もいいなとか、天気はすごく風情があるものでしたが、今はもう夕立がゲリラ雷雨と呼ばれるようなもので、皆さんが感じている天気は、私が感じている天気とはまた違っているのかもしれないと思っています。その辺りも、いつか皆さんとお話しできればうれしいです。

実は、私は駒澤大学にとっても思い入れがあります。近くにある西友の向かいにファミリーマートがありますが、そのファミリーマートの上は、2階から14階までがシェアハウスになっていて、そのシェアハウスの初期メンバーとして、2013年に1年間ほど住んでいました。そして、そこで出会った人と結婚したんです。そのシェアハウスは成婚率がとても高く、私が知っている限りでも10組ほどが結婚しています。もし結婚したい方がいれば、ぜひシェアハウスに住んでみてください。

私にとって、この駒澤大学は人生の分岐点になった場所とも言えるすごく大切な場所です。そのような場所で講演させてもらうことは非常に光栄だと感じています。また、皆さんにとっても、本日の講演が人生の分岐点になるような時間にできればいいなと思っていますので、最後までお付き



合いいただけると幸いです。

## 2 人との違いを楽しむ

本日のタイトルである「自分らしいキャリアの作り方」を改めて考えた時、人との違いを楽しんできたというのが、自身の人生を振り返って思った事でした。

私は兵庫県尼崎市出身で、清風南海中学高校に通っていました。仏教校なので、その辺りも駒澤大学と親近感があると勝手に感じています。大阪府と和歌山県の県境にあるため、約1時間半かけて通学していました。6年間、毎朝、朝礼の時に般若心経を唱えたり、週1で仏教の授業があつて瞑想（めいそう）したりしました。また、中学1年、高校1年では、7日間ほど高野山にこもって宿坊体験をする修養行事というものがあり、お坊さんの話を聞いたり、精進料理を食べたりしました。その7日間はお風呂に入れないので、女子的には結構つらい行事でした。遠足も伊勢神宮や、富士山に登ったり、東大を見学したりという、日本一を攻めるツアーがあるなど、少し個性的な中学高校に通っていました。

遅刻や整髪検査がアウトになると写経をしなければならず、結構大変でした。写経はちゃんと書こうとすると1時間ぐらいかかります。裏に薄く字が透けていて、それを筆ペンでなぞっていくんですが、ちゃんと書かないとまたやり直しさせられるので、止めやはねをきれいになぞっていくと1時間ぐらいかかってしまいます。私はたくさん遅刻したし、整髪検査もたくさん引っ掛かったので、数え切れないほど写経を書いて、書くのが得意になってしまいました。

また、私は中学1年の時に初めて女子が入ったタイミングだったので、女子の初期メンバーとして、ずっと男子校だったところにいきなり女子が



入った形になり、5 学年に男子、1 学年に女子がいる共学校という特殊なところで育ちました。そのため、男社会で生きていくことを学んできたのも、この学校のおかげと思っています。加えて、この時にしかできなかった特殊な経験が、後の仕事をする上で、自分らしい考え方や人と違う考え方を養う意味で、とても意味があったと感じています。

この学校は、国立大学を目指すのが当たり前という進学校だったので、私学に受かっても合格一覧に名前を載せてもらえないような学校でした。そのため、私はずっと落ちこぼれだと思いながら 6 年間を過ごしていましたが、何とか同志社大学に合格して、同志社大学に行くことになりました。

中学高校ではきらきらした青春時代と無縁の生活を送っていたため、大学ではやりたかった事を全部やろうと、ダンスをしたり、髪の毛を茶髪にしてパーマをかけたりしました。中学高校は仏教校だったからか、色も地味な感じでしたが、同志社大学はキリスト教の学校で文化などが全く違い、私としては非常にカルチャーショックでした。学生の雰囲気も華やかで、最初にとっても衝撃を覚えたことを今でも覚えています。

駒澤大学は仏教が必修科目かもしれませんが、同志社大学は全くそういうことがなく、キリスト教も学びたい人が学んでくださいというスタンスで、すごく自由な校風だと感じていました。本当に同志社大学は自由だった印象です。

アルバイトも、大阪にあるテレビ朝日系列の朝日放送が制作する夏の高校野球のハイライト番組「熱闘甲子園」で事務のバイトをして、その番組ができるまでのスタッフさんの苦労などを裏で見せてもらったり、また、USJ でバイトしたりと、この時にしかできない事をやると決めていたので、いろいろな事を経験しました。

大阪の三大夏祭りの 1 つで「愛染まつり」というものがありますが、「愛



染まつり」の愛染娘のオーディションにも合格し、貴重な経験をさせてもらいました。この辺りも自分の中で、人と違う事をしたいというのがあったため、いろいろと意識してチャレンジしていたと思います。いつかこの話はネタになるだろうと思うような事に、積極的にチャレンジして取り組んできました。

ただ、大学生活の後に就職活動をするわけですが、私は就職活動をするに当たって全く準備せず、とにかく遊んでしまった大学生活だったため、就活もぼろぼろでした。テレビ局で働きたいという思いは漠然とあったので、全国のアナウンサーが一番早いと考えてアナウンサーの試験を受け、キー局の制作の試験も受けましたが、落ちました。その後、地方局も受けましたが駄目で、制作会社も駄目で、全部全滅してしまいました。どうしようとなった時に、ふと勉強しようというきっかけになったのが気象予報士だったんです。

なぜ気象予報士なのか、皆さんも気になると思います。テレビ局で働きたいという思いが元々あったのは、より多くの人の役に立つことがしたいというのが私の中であったからです。その中で、自分にとって多くの人の役に立つものがテレビだったんです。自分がテレビを通して笑いや感動をもらい、つらい時には背中を押してもらったため、それを今度は自分が提供する側になりたいと思い、テレビ局を自分の中で1つ目標にしました。

しかし全滅してしまっって、どうしようという時に、母親からアドバイスがありました。「気象予報士という資格があるけれども、これを持ってもう一度テレビ局にチャレンジしてみれば」と言ってくれたんです。それが私にとってとても大きかったです。また、女性は手に職があったほうが今後の人生がより豊かになるのではないかという母親の考えがあったため、その点にもすごく興味を持ちました。気象予報士が非常にリアルになったのが、母親のアドバイスです。



また、ニッチな世界への好奇心も私自身にありました。私は中学高校で、勉強してもかなわない人たちがいるということをずっと感じながら6年間を過ごしてきました。1を聞いて10を理解できる人たちをたくさん見てきて、私は1を聞いても全然理解できないという中で、同じ土俵で戦ってもきっと勝てないと思っていました。では、私が何か他の人になに専門的な知識を身に付ければ、その人たちと張り合えるではないけれども、同じような土俵で戦えるかもしれないと思ったことも、一つのきっかけとしてありました。

あとは、就活に疲れたことも一つの大きな理由になります。就活は相手がいて初めて成り立つことです。なぜ面接で落ちたのか分からないことが私としては非常につまらなかったため、やればやるだけ結果がついてくる勉強の世界にすごく魅力を感じました。悪い言い方をすれば、勉強に逃げた形になりますが、その時はそれがとても魅力的に感じて、気象予報士の勉強をしようと思った一つのきっかけでした。このような事が重なり、私は気象予報士を目指す流れになります。

### 3 気象予報士の資格について

気象予報士の資格について少しご説明します。まず、1994年に気象業務法が改正されたことで、天気予報が規制緩和され、元々は国の事業だったものが、民間の人でも行うことができるようになりました。ただ、誰でもやっていいことになった以上、時に命に関わってしまうような気象情報がでたらめになると混乱を招くため、きちんとした技術者を育てよう、膨大なデータを読み解ける技術者を気象庁からも増やそうということで、気象予報士の制度が始まりました。

受験者数はこれまででおよそ20万人、合格者数は約1万人です。1回



の試験で受験者数は 4,000～5,000 人ほど、最近が減って 3,000 人台でしたが、去年の朝ドラの「おかえりモネ」の効果で、また 4,000～5,000 人ぐらいに受験者数が増えてきたと聞いています。1 年に 2 回試験があり、8 月と 1 月にあります。合格率は大体 5.5%ですので、1 回の試験で 4,000～5,000 人受けて、200 人ほどが受かるような試験になっています。この試験は誰でも受験することができ、資格に年齢制限もないため、最年少では 11 歳や、中学生の合格者がいます。

試験内容は大きく分けて学科と実技に分かれます。学科がマークシートで、実技が記述試験になります。実技は、天気予報の指し棒を持って実演するのではなく、記述です。試験に合格するための勉強時間はおおよそ 1,000 時間が必要だと言われており、インプットすべき情報が本当に膨大です。特に私の場合は文系で、1 から勉強することばかりだったので、すごく大変でした。

学科の一般知識の試験は、気象学の基礎になる部分です。大気の構造や熱力学、降水過程といった、なぜ雨が降るのかというような試験内容が一般知識です。完全に理系の勉強で、私にとってはこれが一番大変でした。専門知識の試験については、予報と一口に言っても、短期予報、中期予報、長期予報などいろいろあります。そのような予報業務全般に関わる知識が問われるのが専門知識で、文系と理系の間ぐらいの内容です。試験はマークシートで、5 択の中に答えがあるので、最悪当てずっぽうでも何とか感じる感じです。15 問中 11 問以上で合格になり、一般と専門のマークシートで合格して初めて、実技の記述試験を採点してもらえます。そのため、いくら実技試験を受けても、学科試験に合格していないと採点してもらえない試験になります。ただ、試験の雰囲気などを感じたいため、記念受験として受けて帰る方がほとんどです。試験時間も長く、午後も 75 分の試験が 2 本あるため、結構体力勝負で 1 日がかりの試験になります。



実技の試験ですが、天気をもともと理解する上で、立体的に構造をイメージすることが大事になってきます。テレビで見るのは地上天気図だけだと思いますが、試験では1,500メートル付近や、5,500メートル付近といった、いろいろな高度の天気図を見ます。また、それぞれの気象データを読み解くのに加えて、気象衛星、雨雲レーダーやアメダスのデータなど、いろいろなものを駆使して天気予報を組み立てていく必要があります。試験も、本番の天気予報を組み立てていく過程を実技試験で実演していくような感じです。

そのため、相当な知識ももちろんですが、それを分かりやすく書く文章力も求められます。さらに、それを限られた時間の中で組み立てなければならぬため、本質的な理解が必要になってきます。私にとって、この実技試験はごまかしが利かない試験だと感じていました。大体みんな、この記述の実技試験で落ちています。ただ、学科試験の合格の免除期間があり、1回合格すると1年間は猶予があります。

#### 4 気象予報士の試験をどう乗り越えたか

私の場合、3年生の終わりで就活が駄目だと分かっていて、4年生になってどうしようという時に、気象予報士試験をまず受けようと決め、8月に受けました。この時はもちろん記念受験で、勉強を始めてまだ最初の数カ月だったため、取りあえず受けてみようという形で受けました。資格の学校のヒューマンアカデミーにも通って、そこで気象予報士の勉強をしながら試験の1回目を受けましたが、もちろん全滅しました。

4年生の後期である1月の試験で2回目を受験することになりますが、そのタイミングで2単位を取らず、卒業しないようにしました。資格を取って、その資格を武器にまた改めてテレビ局を受けてようと思っていたため、



自分の中ではこのタイミングで休学を決めて、2単位を落とそうと決めて、コントロールしてテストを受けていました。

2回目の試験の時、私は学科のマークシート試験に合格しました。それで、5年生を迎えて、3回目の試験を8月に受けましたが、やはり実技が駄目だったんです。ここで、今までの勉強では駄目だということを目の当たりにして、4回目の試験でやっと合格することができました。

4回目の試験が1月で、試験の結果が出る3月まで時間があつたため、その時は関西に住んでいましたが、気象キャスター講座を受けに東京まで通うことにしました。今も所属しているウェザーマップという会社があるんですが、TBSの本当に近くです。そこに行って、お天気キャスター講座を週1回受けました。自分の中では、元々天気予報を伝えたいというよりも、テレビに携わりたい思いが強かったため、キャスターをやりたいわけではなかったんですが、テレビ局の裏側を知れるきっかけだと思い、受講することにしました。

その後、合格して6年生の前期のタイミングで、時間にも余裕があつたので防災士の資格を取得しました。できるだけ仕事に役立ちそうな資格を取っておきたかったというのがあります。防災士とは、災害時の防災リーダーを育てるための資格です。阪神淡路大震災の教訓を踏まえて、防災や減災に役立つ人を育てようということで生まれた資格です。

防災士の資格を持ったことで、災害時にどのようなことが起きるのか、何をすればいいのかを具体的にイメージすることができました。天気予報と防災はかなり密接に結びついており、気象予報士は防災も強く呼びかける必要があるため、仕事をする上でとても役立ちましたし、より説得力を持って伝えることができた、この資格を取って思っています。私の個人的な考えですが、今は災害が多発している時代ですので、この資格は日本国民全員が取ってもいいのではないかと思うぐらい、生きる上で大事な資



格だと思います。

6年生の後期になって、2単位を取るために復学しましたが、この時はもう気象キャスターになっているんです。6年生の前期のタイミングでオーディションに合格して、スカパー！のお天気専門チャンネルで週1回、気象キャスターになりました。その仕事をするために東京に引っ越したので、6年生の後期は復学しているけれども、大学には通わずに後輩にノートだけ送ってもらい、2単位を取るためにテストだけ受けて卒業した形になります。後半は、少しイレギュラーな大学生活を過ごしました。

大変だった試験をどう乗り越えたかについて、私は夢があったから頑張れたと思っています。試験がゴールではなかったというのが、すごく大きかったです。今の試験がゴールではなく、テレビ局で働くという強い思いがあったため、やる気をなくしている場合ではないと強く奮い立たせることができました。

皆さんご存じの水泳の北島康介選手は、普段からゴールをゴールと思わない練習をしていたというのをテレビで見ました。プールサイドヘタッチして終わりではなく、その先の時計を見るまでがゴールだということを練習としてやっていたのを見て、ゴールをゴールと思わないことはすごく大事だと、改めて背中を押してもらい、これは全てに言えることだと感じました。

また、仲間も私にとってすごく大きかったです。私は独りだとすぐにサボってしまい、意思も弱く、勉強もやる気を失ってしまうので、友達と泊まりながら一緒に自習したり、質問を共有し合って解決したりしました。資格の学校で同じぐらいの年の子がいたので、あえて自分から声を掛けて誘って、勉強する仲間を見つけていました。その子がいたから、私は勉強も何とか頑張れたし、試験の合格も勝ち取れたと思っています。

私は今でも仲間をすごく意識していて、毎朝友人と Zoom でつないで筋



トレを 30 分ぐらいしています。それも、独りだと絶対続けられないけれども、誰か友達が待っていると思うと続けられるため、自分の中で習慣としてやっている事です。

また、試験の合格者が 5% の意味についても、すごく考えていました。合格率が 5% ということは、200 人位しか合格者がいません。では、私はその 200 人の中でこの問題を一番理解できているかという目線で、常に勉強に取り組んでいました。例えば、間違えてしまった時に、他の人と同じ理解度では私はきっと合格できないと思ったので、受験生の中で一番理解しようという意識を持って試験の勉強をしたことは、とても意味があったと思っています。

## 5 お天気キャスターに必要な 3 つの力

ただ、合格後のほうが実は大変でした。何でも資格はそうなのかもしれませんが、やっとの思いで合格できても、資格を取ってからのほうが大変です。特に大変だったのが、私自身が天気にそんなに関心があったわけではなかったことです。「天気アレルギー」と私は勝手に名付けていますが、資格を持っているのに天気が分からないことが本当につらかったです。

資格試験に出てくるような天気は、日常では起こらないんです。資格試験には、激しい現象が起こるような天気が出てきます。しかし、気象予報士になると、白黒をはっきりつけられないような曖昧な天気の日も扱わなければいけません。でも、私はなぜそうなっているのか、なぜこの天気図なのにこの天気なのか結びつけられなかったんです。それがとてもつらくて、最初の 3 年間は空を見るのも本当に嫌なぐらい、つらかったです。そもそも分からない事が多すぎて、何が分からないのかも分からなかった状況でした。実際の天気とそのデータを結びつけられないという、つらさ



がありました。

しかし、そうこうしているうちに、気象キャスターには3つの力が必要だというのが、分かってきたんです。

一番は「解析力」です。天気図を的確に読み解く必要があるため、それを早くと的確にできる必要があります。ベテランの方はすごくて、新しい予想が更新されると、更新される前と新しく更新された後の変化がどう変化したのか、実況と予想がずれてきた時に、どのようにずれているのか、なぜずれているのかの分析が的確で、しかも速い。そのため、予想が変わってきても、瞬時に対応することができるんです。しかし、新人は更新されたことにも気付かないこともあり、それぐらい違いがあります。解析力は、まず一番大事なものです。

その次が「解説力」です。これはアナウンス力に近いと思いますが、話し方や、間の取り方、強調の仕方など、伝わる話し方という部分になってくると思います。いくら理解していても、それを相手に伝えて、それが伝わらないと防災にはつながりません。伝わらないと意味がないため、ここのもすごく大事になってくると思います。自分はわかっている、それが相手にとってわかりやすいとは限りません。

3つ目が「構成力」です。これは画面の見せ方になると思います。私自身は本当に天気が分からなかったの、分からないからこそ、分かりやすく伝えることはできたのではないかと思います。例えば天気図がややこしい日では、ベテランの方は分かってしまうから使いたくなりますが、私であれば「これは私も分からないし、きっと視聴者も分からないからカットしてしまおう」という潔い選択もできてしまうのは、ある意味で私の力だったと思います。

また、色の使い方や、文字のバランスの部分も、気象キャスターがやらなければいけません。



どれか1つが非常にできているよりも、この3つのバランスができていないと、伝わりにくい天気予報になると思います。解析だけでできても、解説や、伝わりにくい画面の見せ方になっていると伝わりにくい。大学の先生でも、分かりにくいと感じる先生がいませんか。先生はすごく理解しているかもしれないけれども、それを伝えることのプロではなかったりするので、そのバランスが大事かと思います。

## 6 お天気キャスターの仕事

もう一つ、合格後に大変だったのは、仕事が少ないことです。そのため、モチベーションを高く持ってオーディションを受け続けなければならないという大変さがありました。私がどんな仕事をしてきたかについて、大学時代、新人時代、TBS時代、NHK時代に大きく分けて、順を追ってお伝えしていきたいと思います。

まず、新人時代は、1年間、スカパー！のお天気専門チャンネルで2分間の番組を収録していました。これが私にとって気象予報士1年目の仕事で、右も左も分からない状態で始めた仕事です。2分間の尺に収めなければならないのも大変でしたし、画面を見て、カメラを見て話すことにも慣れておらず、それも大変でした。天気も分からず、もう何が分からないのかが分からない状態で始まったのがこの仕事でした。

他にも、ウェザーマップの会長である森田さんが出演している「Nスタ」という番組のネタリサーチをしたり、愛媛県の放送局の天気予報の原稿を書いたりという仕事も同時に行っていました。この時は毎日仕事があったわけではなく、週に2〜3回の仕事をするような1年目でした。

2年目で、「ドライビングウェザー」というウェザーニュースが放送している番組に出ました。ウェザーニュースは民間で一番大きな気象会社で、



高速道路の雪道予報番組を制作していて、それをサービスエリアに流す天気予報を作成しています。そのキャスターをやるという特殊な仕事でした。これは雪道予報なので、冬の期間だけです。そのため、11月から4月という特殊な期間で、雪道予報を出す仕事をしていました。

その後、またオーディションを受けて、3年目にTBS系列の宮城県にある東北放送で夕方のお天気を担当させていただくことになりました。ここが私にとって初めての地上波であり、生放送であり、帯番組です。月曜日から金曜日までを担当させてもらい、私にとって宮城県は非常に思い入れのある場所です。

ここが初めての生放送だったので、ありとあらゆるミスをしてしまいました。マイクの電源を入れ忘れて放送してしまったり、言う事が吹っ飛んで、10秒以上無言になって放送事故を起こしたりなど、全てのミスを犯したのではないかというぐらい、いろいろなミスをしました。

また、ここではさまざまなロケにも行かせてもらいました。宮城県の県花であるハギの花の取材に行ったり、スキー場がオープンすると、そのスキー場に行って取材したりと、天気予報だけではなく、各地の情報もお届けする機会を与えていただきました。これが、最初の3年間の新人時代でした。

その次はTBS時代ということで、3年間、今度はTBSで天気を担当することになりました。「ニュースバード」と「はやドキ!」は朝の番組で、「はやドキ!」に関しては朝4時から5時半の番組なので、完全に昼夜逆転の生活でした。

天気予報は終わりがなく、24時間常に動いているものなので、気象班と呼ばれる部屋には常に誰かがいるような職場になります。そのため、夜中でも明かりがついていて、常に入れ替わり立ち替わりでキャスターがやってくる職場です。



いろいろな形でTBSの番組に携わらせていただきました。結構自由にやらせてもらえて、手書きでフリップを書いたり、双子座流星群がピークの時には、かぶり物をしたり、皆さんに楽しんでもらおうという意識の下でいろいろとやっていました。

気象キャスターに必要な3つの力の中でも、特にこの3年間は構成力に力を入れて伝えていました。それが私にとって強みだと感じていたからです。そのため、重点的に「構成力」に厚みを持たせて伝えていました。

## 7 自分にしかできない天気予報

私にとって大事になっていたことは、私にしかできない天気予報をすることです。視聴者の方に楽しんでもらいたい、天気に親しみを持ってもらいたいという思いでいろいろと取り組んでいました。その中で、一つ大事だと思ってやっていたのが「初体験」でした。

それこそ、最初にお伝えしたシェアハウスに住むことも、私がとても大事にしていた考え方の一つです。人と違う目線で物事を見たいと思っていたので、シェアハウスという選択をしました。

2階から14階までがシェアハウスになっていて、70人ぐらい住めるんですが、2階はみんなが集まれる場所になっていました。また、いろいろな大会にも出ていて、穴を掘る深さを競う穴掘り大会などがありました。もちろん優勝するのは工事現場で働いているような方たちですが、他には練馬大根引っこ抜き大会などもありました。練馬大根はとても長くて、2メートルほどあり、それを長く引き抜けた方が優勝という大会でした。すごく力が要るので難しいですが、いろいろな体験をすることを自分の中で大事にしていました。

他にも、小さい事ですが、今でも続けているのは、料理であれば新しい



レシピへの挑戦や、同じ道を通らないといった事です。それを続けていくことで、自分らしい目線を養えるのではないかというのを意識して、普段からやっています。

私の師匠に当たる森田さんは、ウェザーマップの会長で、私にとっては本当にザ・タレントという感じです。個性が強烈で、森田さんに教わった事はたくさんありますが、今までの気象キャスターがやっていないようなことを率先して行い、天気予報を身近な存在にしています。ある意味カリスマ的な存在だと私は思っていますが、何よりも、難しい事を分かりやすく伝えるのが天才的に上手です。ただ天気を伝えるのではなく、それをエンタメとして伝える能力にたけていると思います。天気以外にも、読書や映画鑑賞、将棋など趣味の幅が広くて、それを天気に結びつけるのも天才的に上手で、お話しするたびに自分の未熟さを痛感させられるような存在です。その森田さんの存在が、私にとって非常に大きかったです。ウェザーマップに所属している予報士たちは、森田さんの考え方を何とか取り入れようと奮闘していると思います。

もう一つ、森田さんには「天気の事を書くな」と言われたことがあります。もう今は、私は書いていませんが、チーム森田の「天気で斬る！」というブログを気象予報士7人ほどが持ち回りで毎日更新していて、そのブログを私も約300回書きました。そこで森田さんに言われたことが、「天気の事を書くな」でした。気象予報士なのにどうしてかと思いましたが、「天気予報はテレビで見れば分かるから、天気周辺の事を書きなさい。全く違う方向から天気を見つめることで、文章に個性を出せ」と言われました。

その時はブログに頭を抱えて本当に大変でしたが、自分にしか書けない情報を得ようと必死で、実際に取材先に電話して取材して、自分の足で情報を取ってきた経験は、すごく私の中で大きな経験になったと思っています。



ブログは卒業していますが、今でも天気のネタを探してしまう自分がいます。どのような事をやっていたかという、実際にオンエアでも使いましたが、例えば、今すぐ誰でもできるお花見です。100 円玉には桜が描かれています、実は 1,000 円札にも表側、裏側にたくさんの桜が描かれているんです。それだけではなく、5,000 円札、1 万円札もよく見るとホログラムの中に実は桜が描かれています。天気予報の中で桜開花予想をすることが多いですが、その小話を少しすることで、視聴者の方に見てもらえるきっかけになるのではないかと思います、このような形でお伝えしていました。

他にも、実は消防マークには天気関連のものが隠されているんです。それは雪の結晶です。雪の結晶には水や団結、純血という意味があり、消防士に欠かせないモットーが表されています。これだけではなく、クモの巣のような部分はホースで、さらにホースの先から出る水も表されており、消火に使う武器が全て配置されたデザインになっています。また、真ん中には太陽が表されていて、これは消防士が市民の太陽になるようにという意味が込められているということも、ネタ探しをしていて知ったことでした。このような小話も天気予報の中で少しお伝えして、そこで他の人との違いを出すことを意識していました。

## 8 NHK 時代のエピソード

最後に NHK 時代を迎えますが、何度も NHK のオーディション受けて、3 回目のオーディションで合格することができました。実際に天気図を解析した後、見ている方たちの前で実演するというのがオーディションの内容でした。

NHK の渋谷にいる気象キャスターはおおよそ 10 人です。予報士が約 1



万人いる中で、10 人に選ばなければなりません。確率は 0.1% ぐらいのため、やはりみんなと同じでは駄目で、印象に残る一言をすごく意識して、オーディションに挑んで伝えました。

晴れて予報士 7 年目に、NHK の「ニュース 7」という番組を担当させていただくことになりました。後ろが緑色のバーチャルセットで、何もなければいけども、あるようにしゃべることも大変でした。慣れないとなかなかできません。画面を見ているふりをして、プロンプターに出ている原稿を見るのも訓練が必要で、最初はなかなか自然にできませんでした。

画面の見せ方もいろいろ工夫していました。例えば、関東の平野部で雪が降りそうな時は、スカイツリーの 300 メートルの高さであれば雪だけでも、東京タワーの高さだと雪になるか微妙で、積もるかどうかはすごく微妙だという話をしたりしていました。そのため、単純に「雪になるかも」ではなく、その奥行きを出すように、画面の見せ方を工夫して伝えていました。

今は NHK 関西にいらっしゃいますが、「ニュース 7」のメインキャスターだった武田アナウンサーは、私にとってすごく大きな存在でした。恐らく「ニュース 7」は NHK が始まってからずっとあるニュース番組だと思いますが、30 分間という短い時間の中にニュースを凝縮していて、いわゆる NHK の看板番組のような番組で、最も緊張感のある番組でもあります。そこで気象キャスターをやれたことは、私にとっても非常に誇りですし、つながれてきたバトンを私がつなげたことも、すごくありがたいと思っていますが、それだけ緊張の連続の毎日でした。1 秒単位で、原稿が短くなった場合はどうするかということも考えて、放送に挑んでいました。

天気予報は番組の最後にやることが多いですが、それは尺調整が一番の仕事だからです。天気予報は長くて 1 分ほど延びることもあれば、短くなれば 30 秒ぐらいで伝えなければならないこともあります。特に「ニュー



ス 7」は 30 分しかないので、その駆け引きが非常に激しく、私の中では最も緊張感のある番組でした。そのため、短くなればどうするかというのは、本当に秒単位で決めて挑んでいました。

その中で、武田さんという存在が、私の中ですごく大きかったです。何がすごいかというと、災害が起こりそうな時に、その場にいる人を本気で救いたい、危ないことを伝えたいという思いが怖いぐらいだったんです。だからこそ、武田さんの言葉は視聴者の方に届くんだというのを目の当たりにしました。大切な経験をさせてもらい、武田さんの背中を見て、災害報道のあり方を学ばせてもらった 1 年だったと思います。

その後、また大きく雰囲気が変わり、「ニュース シブ 5 時」という夕方 5 時からの番組に引越しました。ここで、眼鏡をかけて天気を伝えたいほうがいいのではないかとプロデューサーの意見で、眼鏡をかけることになりました。私は本当に目が悪くて、リハーサルの時に眼鏡をかけていたら、「その眼鏡いいじゃん」となって、眼鏡で伝えることになりましたが、見た目の印象もとても大事なんだと思いました。

「ニュース 7」とは全く違う雰囲気で、同じスタジオですが、緊張感も全く異なる番組を担当しました。使う筋肉も違うため、振られた事にも答えられるような反射神経が必要です。「ニュース 7」はしっかりした原稿で、一言一句間違えてはいけない緊張感がありますが、「ニュース シブ 5 時」は聞かれた事にすぐ答えられるような瞬発力が必要で、その緊張感がありました。

他にも、夏の時期は気象キャスターが夏休みに入るため、代役で朝の「おはよう日本」や、夜 9 時からの「ニュースウオッチ 9」に出演したこともあります。私としては、人との違いをすごく大事にしていたので、イラストを描いて親しみを持ってもらいたいと思い、イラストを描いたりしていました。NHK の中では結構攻めたというか、あまりやっている人はいな



かった感じですが、そこで天気に興味を持ってもらえればうれしいという思いでやっていました。

1日の流れをざっと見ていきたいと思います。まず、着いたらスーパーコンピューターの予想を見たり、天気図を解析したりして、今日伝えるべきポイントは何かを整理します。そして、こうすれば画面が見やすいのではないかな等をディレクターと相談して、画面を発注します。その後、メイクしたり衣装に着替えたりします。たまに衣装がかぶることもあります。衣装を調整してくれるスタイリストさんがいるので、衣装合わせをする日もあります。

大体3時半ぐらいからブリーフィングを行います。これはNHKの情報の品質管理をする時間です。NHKの天気予報として、このような見解で今日は出しますというのを、出演者全員で集まって擦り合わせる時間になります。私はこの時間が一番緊張しました。先輩に自分の解析力をお披露目しなければならない時間なので、毎週とても胃が痛かったです。週に1回、持ち回りで回ってきますが、この時間は生放送より緊張していました。

終わった後は、和気あいあいとしています。それで、オンエアに至るという感じです。スタジオはすごく広くて、「ニュース7」と同じスタジオですが、「シブ5時」が終わった瞬間に「ニュース7」の人たちが入ってきて、設置が始まります。

「シブ5時」では、「お天気旅行」というロケのコーナーを設けてもらい、「天気と暮らしの関係を探ろう」というテーマで全国各地を旅させてもらいました。皆さん、各土地で天気をうまく活用して生活されていて、天気は人との生活に深く関わっているということを改めて感じたロケでした。

例えば、栃木県の代表的な特産物のかんぴょうですが、栃木県は全国のかんぴょうの生産量の9割以上を占めています。それはなぜかという、栃木県は全国で一番雷雨が多いからなんです。雷雨は長く降り続かないた



め、根が腐りません。しかも、一時的に熱を冷ますことができるので、かんぴょうの元は夕顔ですが、暑さに弱い夕顔の実を守ることができるという特徴があります。そのため、取材した農家さんは、収穫前に雷さまに手を合わせて拝んでいました。それほど雷を敬っていて、雷神社も近くにあります、雷がとても身近なんです。その辺りも、天気の人との関わりは深いと感じたきっかけでした。

## 9 おわりに

ロケを通して、私自身、日本の自然の豊かさや素晴らしさに改めて気付かされ、もっとちゃんと勉強したいと思い、通訳案内士の勉強を始めました。そして 2021 年 2 月 5 日、子どもが生まれて 4 日後に合格通知を頂くことができました。天気と地理も非常に関係が深いですが、通訳案内士にも科目に地理の試験があり、すごく関係が深いので、通訳案内士と地理で面白い事ができないかということも、ひっそりと思っています。

また、天気予報から見るジャーナリズムについても、面白い話ができるのではないかと考えています。本日、せっかくこのようにつながれたため、このつながりを生かして何か面白い事ができればいいなと思っています。何かあれば Twitter など何でもいいので、メッセージをもらえればうれしいです。このつながりを大事にして、次につなげていければうれしいと思います。

最初にお伝えしたように、人との違いを恐れず、それをむしろ楽しみ、仲間を巻き込みながら、それぞれの人生を豊かにしていってもらえればうれしく思います。お聞きくださりありがとうございました。



## 10 質疑応答

Q：本格的に始められたのが、まさに東日本大震災の2011年で、その後に宮城でも長く仕事をされていたとのことですが、それはどのような影響を与えているのでしょうか。日本の災害などに対する思いがあれば教えてください。

福岡：その辺に関しては、私は仕事を始めて養っていった部分が非常に大きいです。特にNHKに入ってから、災害報道の最前線で伝える皆さんの姿に学ばされて、刺激をたくさんもらったことが大きいです。それこそ、武田さんの存在がすごく大きかったです。

Q：メディアを志望する学生に向けて、心構えや就職活動など、伝えたい話があればお願いします。

福岡：何とかなると感じます。私自身も全滅して、どこにも内定をもらった経験がありません。それでも諦めずに、人と違う人生を楽しみながら模索したことで、今の道が開けたと思っています。あまりみんなと同じことを大事にせずに、自分がやりたいことや、面白そうと思う事は、どんどんチャレンジしたほうが良いと思います。むしろ、それをわざとやってみるぐらいの気持ちで、この話をネタにしてやるという気持ちで取り組むと、その道が開けてくると思います。きっと、そこにはまた面白い人たちが集まって、広がっていくと思うので、そのような人生もあるかと思っています。



Q：仕事をしていない時は、どのような事を勉強したり、どのような事に力を注いだりしていましたか。

福岡：1年目は何もできなかったのですが、とにかく少しでも理解を深めようと思い、先輩の書いた天気予報の原稿のいろいろなワードを抽出して自分のノートに書いたり、天気予報を全部書き起こしたり、この画面だと何秒間しゃべるのかを計って秒数を書いたりしていました。ひたすら先輩の天気予報を見て学んでいたのも、それがネタとしても蓄積されていきました。この季節にこのネタを使うといった事も、全部ノートに書いていました。